

はじめまして



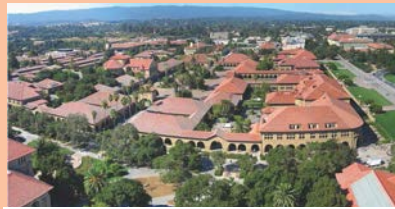
循環器科 やまだりょうたろう 山田亮太郎先生

皆様、初めまして。前任の林田晃寛先生から引き継ぎ、4月より水曜日の循環器内科外来を担当しています、山田亮太郎と申します。

私は2011年4月より2013年5月までスタンフォード大学医学部Center for Research Cardiovascular Interventions(CRCI)に留学させて頂きました。

スタンフォード大学はカリフォルニア州サンフランシスコから南東に車で約50分弱の距離に位置します。カリフォルニア州は冬の2~3カ月のみが雨期でそれ以外はカラっとした青空という恵まれた気候で、研究に行き詰まった際に天候で救われたことも数知れずあります。大学は阪神甲子園球場の約830倍程度とも言われる非常に広い敷地で、行政上では自治区として独立した警察などを有しています。大学の近隣には日系スーパーやレストラン(寿司、ラーメン)、紀伊国屋書店まであり2年2ヶ月の留学期間中に日本が恋しいと感じることはありませんでした。

この地域は古くからシリコンバ



スタンフォード大学

レーと呼ばれ、Apple、Google、Facebookなど名立たるIT関連の会社の本部もすぐ近くにあり、大学周辺は治安が非常に良い反面、全米屈指の家賃の高さ(2ベッドルームで平均2500\$/月!)です。留学中はフェロート同士で財布の中身の少なさ(5\$前後しか入っていないこともしばしば…)を競争し合ったのも良い思い出です。大学内の数多くのラボではイノベーションを合言葉に産学協同でデバイスの開発に取り組んでおり、血管内超音波(IVUS)も1998年にPaul G. Yock先生らによって開発され



Peter J. Fitzgerald教授と著者

ました。

私が所属したCRCIではPeter J. Fitzgerald先生、本多康浩先生の指導の下、血管内超音波(intravascular ultrasound: IVUS)を中心とした多施設共同研究の解析がなされています。これまで日本人、韓国人や台湾人の留学生が数多くCRCIに在籍され、新規ステントの開発に関わる研究等で素晴らしい業績を残されて来ています。またスタンフォード大学では志の高い循環器領域の日本人

留学生も数多く在籍されており、数ヶ月毎に交流を深めさせて頂くことが出来ました。このような素晴らしい方々と帰国後も学会や研究会の際に再会を楽しめたらと考えています。

留学期間中には開発中のステントの研究の他に院内のトライアルでIngela Schnittger率いるエコーラボとコラボレーションしたStudyにも参加させて頂きました。IVUSを用いたMyocardial Bridge(MB)の診断、MBの動脈硬化への影響、ステントリコイルへの影響、そして長期予後についての研究においてAHA2012、TCT2012、ACC2013で成果を報告させて頂きました。



カテ室での風景
(Ingela Schnittger教授、Jennifer Tremmel講師と共に)

この留学は研究だけでなく家族との絆、日米の文化の違いを再確認できた人生でかけがえない期間となりました。帰国後は留学中に学んだ知見を活かし地域医療に貢献できるように、臨床および研究に繋げて行ければと思います。



Yosemite National Parkにて

山田先生は毎週水曜日、循環器の外来を担当されています。

Doctor's Eyes